

◇ 聖籠町の教育構想

〔社会の動き〕

- 超少子高齢化、IOTの進展、世界情勢の変化などにより、人類がこれまでに経験したことのない社会が到来する。
- このような社会を生きる子どもたちには、他者と協働しながら未来を創る資質・能力、態度を育む必要がある。

〔聖籠町の学校教育構想〕

- 親和性の涵養、企画力の育成、貢献意欲の醸成を大切にし、以下の構想により未来を創る子どもの育成を目指す。

- 自分の未来
- 家族の未来
- 地域の未来
- 国・世界の未来



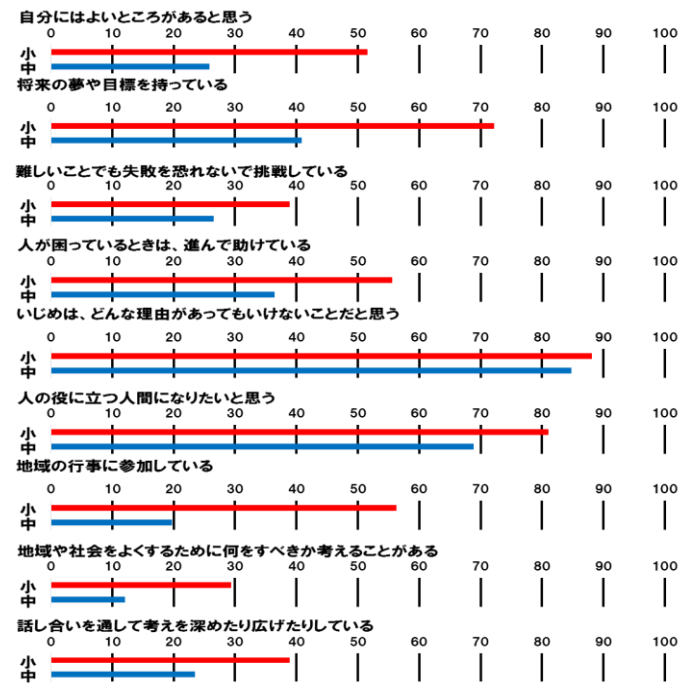
◆【施策総括】 学びに向かう力の向上

【国の動き】

- 国は2007年度から全国学力・学習状況調査を実施(意欲面の調査含む)
- 急速に進展する社会を生き抜き、未来を創っていくために、主体的・対話的で深い学びを重視し、学びに向かう力を向上させることが必要

【聖籠町の状況】

- 2019年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査における「断定的肯定割合を高めてもらいたい質問項目」の状況は右グラフのとおり



2020～2024の取組～何を、いつまでに、どうやって、どうする～

- 全国学力学習状況調査の児童質問紙における「断定的肯定割合を高めてもらいたい質問項目」の断定的肯定率の向上

- ↓
- A) 教員の授業改善・授業改革の研修への支援
 - 英語教育、プログラミング教育、ファシリテーション、地域教育プログラム、学級力、ICT機器活用、家読等の研修支援
 - B) 教員の働き方改革への支援
 - 業務支援体制の強化、部活動指導員等の配置
 - C) 個性・興味関心・特技に応じた追求の保障
 - 英語やプログラミング、文化、スポーツ等に取り組める環境づくり

↓

✓ 該当質問項目の断定的肯定率を下表以上

断定的肯定割合を高めてもらいたい質問項目	小学校	中学校
自分にはよいところがあると思う	51.6%→ 80%	25.8%→ 60%
将来の夢や目標をもっている	72.2%→ 80%	40.9%→ 60%
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	38.9%→ 80%	26.5%→ 60%
人が困っているときは、進んで助けている	55.6%→ 80%	36.4%→ 80%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	88.1%→100%	84.8%→100%
人の役に立つ人間になりたいと思う	81.0%→ 90%	68.9%→ 80%
地域の行事に参加している	56.3%→ 80%	19.7%→ 50%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	29.4%→ 80%	12.1%→ 80%
話し合いを通じて考えを深めたり広げたりしている	38.9%→ 80%	23.5%→ 80%

2020	A・Bの実施、Cの検討
2021	A・Bの実施、Cの検討
2022	A・B・Cの実施
2023	A・B・Cの実施
2024	A・B・Cの実施 ✓ 該当質問項目の断定的肯定率が左表以上

KPI	該当質問項目の断定的肯定率が左表以上		
基準値	上記状況 (2019)	⇒	左表以上 (2024)

◆ 企画力を育むプログラミング教育の促進

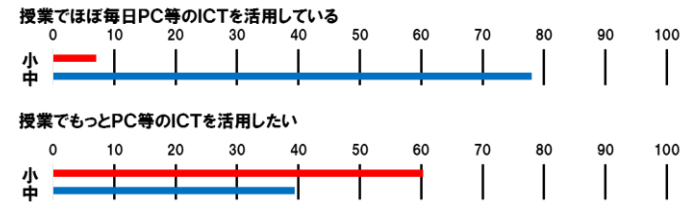
〔国の動き〕

- 2020年度から小学校でプログラミング教育を本格実施
- ギガスクール構想で全児童生徒に一人1台のPCを整備
 - ・無線LAN環境整備を条件にリース及び購入費用を1/2補助

〔聖籠町の状況〕

- 2018年度から小学校で総務省が示すプログラミング教育を試行
- 2019年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査における「断定的肯定割合を高めてもらいたい質問項目」の状況は右グラフのとおり

2019年調べ	聖籠町 小学校	聖籠町 中学校	全国 小中学校	新潟県 小中学校
1台当たりの人数	7.0	2.8	5.4	5.1



2020～2024の取組～何を、いつまでに、どうやって、どうする～

- ICT機器を使った授業改善・授業改革の推進
 - 教科の中でのプログラミング的思考の育成(文部科学省)
 - 総合的な学習でのプログラミング的思考の活用(総務省)
- ↓
- A) 一人1台のICT機器の整備
- B) 教員のICT機器の活用能力を高める研修の充実
- C) プログラミング教育推進体制の構築
- ① 町教職員全員研修会での研修
 - ② プログラミング教育推進部会のリードのもとでの実践の累積
 - ③ プログラミング教育推進体制の確立(地域メンターの発掘・育成)
- D) 学校外でプログラミング的思考を生かして挑戦する場の提供
- NPO法人新発田科学技術教育ネットワークとの連携

✓ 該当質問項目の断定的肯定率を下表以上

断定的肯定割合を高めてもらいたい質問項目	小学校	中学校
授業でほぼ毎日PC等のICTを活用している	7.1%→ 80%	78.0%→100%
授業でもっとPC等のICTを活用したい	60.3%→ 80%	39.4%→ 60%

✓ プログラミングが楽しい・好きという児童を80%

2020	A・Bの実施 C①②の実施、③の検討 Dの実施
2021	A・B・C①②・Dの継続 C③検討
2022	A・B・C①②・Dの継続 C③の開始
2023	A・B・C・Dの継続
2024	A・B・C・Dの継続 ✓ 該当質問項目の断定的肯定率が左表以上 ✓ プログラミングが楽しい・好きが80%

K P I	該当質問項目の断定的肯定率が左表以上 プログラミングが楽しい・好きが80%		
基準値	上記状況 開始 (2019)	⇒	左表以上 80% (2024)

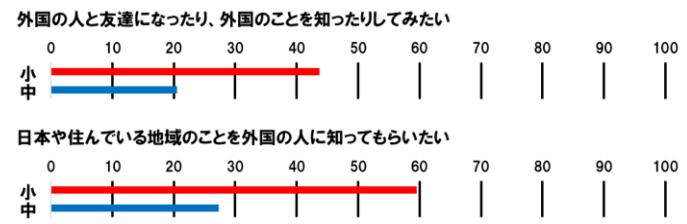
◇ 地域への愛着をもったグローバル人材の育成

〔国の動き〕

- 急速なグローバル化の進展→英語力の一層の充実は極めて重要な問題
- 聞く・話す・読む・書くの4技能を活用した実際のコミュニケーション活動を重視
- 我が国(地域)の歴史・文化の教養をそなえた上でのコミュニケーションが大切

〔聖籠町の状況〕

- 2019年度からこども園から中学校までを貫く英語教育のあり方を試行
- 2019年度の中学校の英検3級以上合格状況20人14%(準2級1人、3級19人)
- 2019年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査における「断定的肯定割合を高めてもらいたい質問項目」の状況は右グラフのとおり



2020～2024の取組～何を、いつまでに、どうやって、どうする～

- 外国人と臆せずコミュニケーションできる能力の伸長
 - コミュニケーション内容を豊にする「聖籠学」の推進
- ↓
- A) コミュニケーション活動を支える教材・教具の充実
- ① こども園・小学校低中学年に必要な英語教材・教具の整備
 - ② 英語学習への意欲向上、学習の充実を図るネット接続環境整備
- B) 外国人とのコミュニケーションを必要とする場の設定
- ① 水曜英会話教室(仮称)の開設
 - ② 中学生海外語学研修に加え、英語に親しむ場の提供
 - ③ 町採用非常勤のほかネイティブスピーカーの充実
- C) 地域や町に関する知識・理解の獲得(聖籠学)
- 地域教育プログラムの創造・実施・評価・改善への支援
- D) 英語力を確認し挑戦する場の提供
- 英検3級受検の推奨

✓ 該当質問項目の断定的肯定率を下表以上

断定的肯定割合を高めてもらいたい質問項目	小学校	中学校
外国人と友達になったり、外国のことを知ったりしてみたい	80%	60%
日本や住んでいる地域のことを外国人の人に知ってもらいたい	80%	60%

✓ 中学生英検3級合格者を40%～50%

2020	A・B①②の実施、Cの創造・実施 B③・Dの検討
2021	A・B①②・Cの継続 B③・Dの検討
2022	A・B①②・Cの継続 B③・Dの実施
2023	A・B・C・Dの継続
2024	A・B・C・Dの継続 ✓ 該当質問項目の断定的肯定率を左表以上 ✓ 中学生英検3級合格者が40%～50%

K P I	該当質問項目の断定的肯定率を左表以上 中学生英検3級合格者が40%～50%		
基準値	上グラフ 14% (2019)	⇒	左表 40%～50% (2024)

◇ 子どもの興味・関心を刺激し、可能性を育む幼児教育の推進

〔国の動き〕

- 2018年2月 幼稚園教育要領・・・義務教育及びその後の教育の基礎を培う
- 2019年10月 幼児教育・保育の無償化

〔聖籠町の状況〕

- 0～2歳児は私立保育園、3～5歳児は町立こども園
 - ・平成17年度に幼稚園からこども園に移行(こども園では通常保育は無償)
- 幼稚園機能に保育機能を付加したことにより、教諭の研修時間の確保が困難



2020～2024の取組～何を、いつまでに、どうやって、どうする～

- 子どもの興味・関心を刺激する教育内容の構成
 - 子どもの可能性を見取り、自覚させる教育の推進
- ↓
- A) 特色ある教育内容の教育課程への位置付け
- * 非認知的能力を高めるための遊び・原体験につなげる仕掛け
 - ① 言語・・・平仮名の読み書き、英語の言葉、習字
 - ② 数・形・・・数え方、数字の読み書き、形の名前
 - ③ 運動・・・走る、跳ぶ、投げる、取る、蹴る
 - ④ 文化・・・お茶、絵、合唱・合奏、ダンス、読み聞かせ
 - ⑤ マナー・・・挨拶、しぐさ、思いやり 等の学び
- B) 教員の指導力の向上
- ① 声掛け・傾聴・見取りに関する研修の実施
 - ② 子どもが活動に没頭できる教材・教具の整備
- ↓
- ✓ 各幼稚園での保護者アンケートで、幼稚園教育の肯定的評価を80%以上

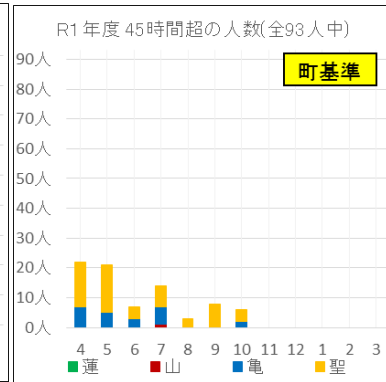
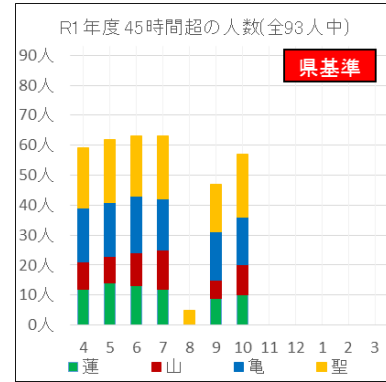
2020	Aの検討・試行 Bの実施
2021	Aの検討・試行 Bの継続
2022	Aの実施 Bの継続
2023	Aの改善・実施 Bの継続
2024	Aの改善・実施 Bの継続 ✓ 幼稚園教育の肯定的評価が80%以上

K P I	幼稚園教育の肯定的評価が80%以上		
基準値	多様な意見 (2019)	⇒	80%以上 (2024)

◇ 子どもと向き合う時間を生み出す学校の働き方改革の推進

〔社会的背景〕

- 学習指導のみならず、学校が抱える課題は、より複雑化・困難化
- 教員勤務実態調査(H28)の集計でも看過できない教師の勤務実態
- 〔令和元年度の聖籠町立小中学校における教員の勤務実態〕
- 全教職員93人の内、毎月60人程度が45時間超
 - ・中学校では部活動と生徒指導対応、小学校では生徒指導対応
 - ・教員の本来業務以外の業務への対応



2020～2024の取組～何を、いつまでに、どうやって、どうする～

- 「教員以外が担うべき業務」「必ずしも教師が担う必要のない業務」「負担軽減が可能な業務」の整理と業務見直し
- 働き方改革推進のための環境整備
 - ↓
 - A) 各種業務の整理と見直しに対する支援
 - B) 生徒指導対応への支援
 - ① 生徒指導対応支援の充実
 - ② SC・SSW・スクールロイヤー等による支援の充実
 - C) 中学校部活動への対応
 - ① 部活動指導員制度及びスポーツエキスパート活用事業の活用
 - ② 地域のスポーツ・文化団体との連携
 - D) 教員が本来業務に専念できる体制整備
 - ① 業務支援体制の強化
 - ② 地域住民による見守り活動の充実
 - ③ 校外学習時のバス予約等、手続きの簡素化
 - ④ 校務支援システムの導入

↓

✓ 月45時間超を0人

2020	A・B・C①・D①③の実施 D②の充実 C②・D④の検討
2021	A・B・C①・D①②③の継続 C②・D④の検討
2022	A・B・C①・D①②③の継続 C②の試行 D④の検討
2023	A・B・C・D①②③の継続 D④の実施
2024	A・B・C・Dの実施 ✓ 月45時間超を0人

K P I	月45時間超を0人		
基準値	60人 (2019)	⇒	0人 (2024)